

今、ブロック学生事務局の店舗担当が「ひとことカード」の投稿数や回答などについて数値的に分析をして
くれている。結果はまだ出ていないが、数字に着目することで見えてくるものは多いと思う。

学生委員会で活動をしていると「想い」に目が行く。もちろん、大学生協運動をする中で「想い」は大切
である。大学生協が大事にしてきたこと、大学生協の組合員として大切にしてきたことを学び、実践していく
ことは学生事務局としても重要視している部分だ。一方、学生委員会活動をしている人間は「数字」から目を背
けがちなのも事実。「大学生協は利益を目的としていないから」と。かくいう私もそうやって活動していた時
期がある。

だが、「その数字がなにを表しているか」を考え出すと数字が私たちの取り組みを支えていることがわかる。

たとえば新学期。「生協の加入者数」や「共済の加入者数」は何を表しているのだろう…？ 思うに、それ
は新学期の様々な取り組みを通して「大学生協の良さ」「共済の魅力」に新入生やその保護者が「共感した数」
だろう。そして「共感」で仲間を増やしていくことはまさに私たちが大事にしたい「協同組合らしさ」のひと
つだろう。

そしてその「数字」を上げるためにはどうするかを考えることはどうだろう。きっとそれは、「組合員の参
加（まずは利用?）」を増やすためにはどうすればいいか、を考えることだ。そして考えていくと、設備やサ
ービスの質など手が出しづらい大それたことではなく、生協が自分たちの大学の中で自分たちに必要なモノや
コトで自分たちの生活を支えていることやこれは「自分たちの」生協なのだという意識を増やすことの方が安
定して数字につながるということがわかる。多くの学生委員が「これを大事にするんだ!」ということがきちんと実
践されていれば、実際に数字につながっているのだ。

つまり、学生のことば・目線で大学生協の活動においての「数字」を考えるとその役割は大きく2つだ。

ひとつは自分たちの取り組みの「絶対評価」だ。自分たちの取り組みが実際に他の組合員に影響しているこ
とがわかる。実際に振り返りで数字を職員・学生と一緒に振り返っている生協では、学生委員のモチベーショ
ンが上がっていたり自信につながったりしている。

もうひとつは、自分たち取り組みが理想だけに走りすぎないためのストッパーのような役割だ。数字を通し
て取り組みを考えることで、理念だけの宙に浮いた取り組みではなく、実際の自分や周りの組合員の生活に寄
り添った、地に足をつけた取り組みが行えるのではないだろうか。余談だが、大学生協が長く生き続けている
理由に「お店を持っている」ことを挙げている研究者もいる。

では、ひとことカードを数値で分析すると何が見えてくるのだろう…。近く、会員生協に結果は共有すると
聞いている。ぜひ少し自分たちでも考えてみてほしい。お楽しみに。



大阪樟蔭女子大学生協「私も一言カード」

個人的推しポイント

- 💡 ひとことカードをより書きやすくするための工夫がされている！
(ひとことカードを「わざわざ書く」ってすごく大きな声の上げ方ですね…)
- 💡 ファイリングが丁寧になされていて、見返しやすい！
→組合員の声「丁寧に扱われている」のが
すごく好印象であたたい。

